

第30回 幼児のための「音楽と動きのつどい」

～保育専攻の学生へのアンケート調査～

30th Annual Concert for Children

～Lessons learned from a questionnaire of childcare faculty students～

友廣 憲子

I はじめに

第30回 幼児のための「音楽と動きのつどい」を昨年11月に開催した。今回は30回目の記念公演であり、関西からゲスト「キャンディポップ」を迎えての公演となった。


会場は佐世保市民会館（1408席定員）。保育学科保育専攻の学生たちが音楽表現に関する保育技術の学びの成果を披露する場と位置づけ、佐世保市民の小さな子どもやその保護者、そして、保育園や幼稚園の先生方を招待して開催している。地域市民の皆様に披露し、評価をいただくことを通して、保育技術を磨き、保育者としての自覚を高める目的がある。今回は『ようこそ夢の国へ』をテーマに吹奏楽はアニメ大集合！夢の共演♪、絵本の世界「ヘンゼルとグレーテルの不思議な冒険」、ピアノ連弾「世界に一つだけの花・ビビデイ・バビデイ・ブー・ミッキー・マウス・マーチ」、身体表現「風に乗って遊園地へ」、不思議の世界への誘いオペレッタ「不思議の国のアリス」、附属幼稚園九州文化学園幼稚園年長児マーチング「虹、NHK大河ドラマ江」歌と表現「歌のパレードそうだったらいいのになあ」、ダンス「夢の中のダンス」、ゲストキャンディポップ「歌のお姉さんコンサート」。それぞれテーマに沿った作品を発表し、学生は発表後達成感を感じることができた。本研究は30回までの変遷と昨年第29回開催後の学生アンケートと第30回開催後の学生のアンケート調査を比較し考察する。

1. 「音楽リズムの夕べ」「音楽と動きの夕べ」から「音楽と動きのつどい」へ

1985（昭和60）年3月9日（土）に「音楽リズムの夕べ」を開催し、翌1990年11月16日（金）に「音楽と動きの夕べ」に名称変更し、開催した。当時はオペレッタと音楽リズムを中心に、マーチングとピアノを加え、県北の幼児教育者をはじめ広く一般の方々に本学の教育を理解していただくとう当時の指導者が情熱を傾けスタートした。2004（平成16）年11月13日（土）第20回記念公演を佐世保市民会館で実施し、オペレッタ・ダンス・マーチングのOGが賛助出演した。

2008（平成20）年11月22日（土）に開催した第24回より「音楽と動きのつどい」に名称変更した。これは、夕方の開催を、「幼児のため」というコンセプトから、多くの子どもたちが参加しやすいお昼の時間帯に変えたことによる。内容も保育系3クラブ（オペレッタ、ダンス、マーチング）の演技に加え、表現音楽活動の授業の成果を盛り込み、多くの子どもたちが親しめる催しに変更した。2012（平成24）年11月17日（土）に開催した第28回公演から開催のテーマ「～絆～」を設定している。教育活動の一環として再確認し、学生の日頃の表現音楽活動の成果を発表する場であるとともに、子どもたちや保護者と共に音楽に親しむ機会を設ける地域貢献の場であるとした。さらにこの年から九州文化学園幼稚園とのジョイント公演をおこなっている。第29回は「～愛～」をテーマに、公演。この公演より「総合保育技術」の授業の研究成果発表として位置づけている。

1. 公演内容


 **長崎短期大学**

**第30回 幼児のための
音楽と動きのつどい**
～ようこそ 夢の国へ～

★日 時：平成26年11月15日(土)
★場 所：佐世保市民会館
〒857-0024 佐世保市花園町10-19 ☎0956-23-0267
★開 場：12:30 ★開演：13:00 (16:00 終演予定)
★入場料：一般 500円 小学生 200円 幼児 無料

演 目

<p>～第Ⅰ部～</p> <ul style="list-style-type: none">★吹奏楽★ヘンゼルとグレーテルの不思議な冒険★ピアノ連弾★風に乗って遊園地へ★オペレッタ「不思議の国のアリス」	<p>～第Ⅱ部～</p> <ul style="list-style-type: none">★九州文化学園幼稚園年長児マーチング★歌のパレード ～そうだったらいいのになぁ～★ダンス
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



～第Ⅲ部～

★ゲスト「キャンディポップ」ショー

出演：長崎短期大学保育学科保育専攻・九州文化学園幼稚園・三川内保育園
〈主催〉長崎短期大学 〈後援〉佐世保市教育委員会 長崎短期大学朋友会 〈問い合わせ先〉長崎短期大学 ☎0956-47-5566

2. 構成メンバー

表1 出演者数

科目名	演目名	1年	2年	合計
総合保育技術 a (a) オペレッタ	不思議の国のアリス	10	6	16
総合保育技術 b1 ダンス	ダンス	28	23	51
総合保育技術 c1 吹奏楽	吹奏楽	30	3	33
総合保育技術 a1 (β) 絵本	ヘンゼルとグレーテルの不思議な冒険	12	25	37
総合保育技術 a1 (β) 身体表現	風に乗って遊園地へ	21	11	32
総合保育技術 a1 (β) 歌と表現	歌のパレード	10	33	43
九州文化学園幼稚園	九州文化学園幼稚園年長児マーチング			60
三川内保育園	歌のパレードへの参加			8
ゲスト:キャンディポップ	キャンディポップショー			3
	合計	111	101	273

II 本研究の目的

4月から11月公演後までの授業の活動を通してどのような人間的成長を感じているか4月と11月の変化を比較し、第29回と第30回のアンケート結果を比較する。

III 研究方法

- (1) 対象者 保育専攻1年生 105名(111名中)
保育専攻2年生 95名(101名中)
- (2) 調査日 平成26年11月21日(金)保育専攻2年生
平成26年11月21日(金)保育専攻1年生

IV 調査項目

1. アンケート内容

- ① 必要な保育技術の学び
- ② 演じるための必要な技術の学び
- ③ 仲間とのコミュニケーション能力の育成
- ④ 「発表」の場を「表現」の場として捉え、自分の思いや考えを表現する力
- ⑤ 学習意欲(4月)
- ⑥ 学習意欲(11月)
- ⑦ 学習内容への興味・関心(4月)
- ⑧ 学習内容への興味・関心(11月)
- ⑨ 音楽表現への興味・関心(4月)
- ⑩ 音楽表現への興味・関心(11月)
- ⑪ 知識の修得
- ⑫ 将来(保育者)への関連
- ⑬ 総合保育技術授業
- ⑭ 発表の満足度
- ⑮ 達成感

V 結果

表1 項目別割合 (保育専攻1年生)

項目	5 非常に良い	4 良い	3 普通	2 良くない	1 非常に良くない
	5	4	3	2	1
	第30回割合 (第29回割合)				
①必要な保育技術の学び	42.8% (38.6%)	46.6% (40.5%)	10.6% (20.9%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)
②演じる技術	48.5% (40.5%)	42.8% (46.6%)	8.7% (12.9%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)
③コミュニケーション能力の修得	46.6% (50.4%)	40.9% (28.9%)	12.3% (18.8%)	1.1% (1.9%)	0.0% (0.0%)
④自分の思いを伝える表現力の修得	48.5% (35.7%)	33.3% (36.7%)	20.0% (25.7%)	0.0% (1.9%)	0.0% (0.0%)
⑤学習意欲 (4月)	31.4% (28.9%)	34.1% (30.6%)	25.7% (28.9%)	8.8% (9.7%)	0.19% (1.9%)
⑥学習意欲 (11月)	54.2% (45.5%)	33.3% (30.6%)	13.2% (23.9%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)
⑦学習内容の興味関心 (4月)	37.1% (31.7%)	21% (34.6%)	35.2% (29.9%)	6.7% (3.8%)	0.0% (0.0%)
⑧学習内容の興味関心 (11月)	51.4% (50.4%)	34.4% (29.7%)	14.2% (19.9%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)
⑨音楽表現への関心 (4月)	35.2% (38.8%)	28.3% (31.7%)	30.1% (25.7%)	6.4% (2.9%)	0.0% (0.9%)
⑩音楽表現への関心 (11月)	53.3% (47.5%)	34.4% (29.7%)	12.3% (22.8%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)
⑪知識の修得	44.3% (46.6%)	43.5% (33.5%)	12.2% (19.9%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)
⑫将来への関連	72.1% (55.6%)	20.7% (30.6%)	7.2% (13.8%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)
⑬総合保育技術の授業	46.7% (29.7%)	40% (21.8%)	9.5% (48.5%)	1.9% (0.0%)	1.9% (0.0%)
⑭発表の満足度	78.9% (63.6%)	19.2% (24.7%)	4.7% (11.8%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)
⑮達成感	70.4% (75.2%)	24.9% (15.9%)	4.7% (8.9%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)

表2 项目的割合 (保育専攻2年生)

項目	5 非常に良い	4 良い	3 普通	2 良くない	1 非常に良くない
	5	4	3	2	1
	第30回割合 (第29回割合)				
①必要な保育技術の学び	45% (32.6%)	45% (50%)	10% (16.2%)	0.0% (1.2%)	0.0% (0.0%)
②演じる技術	47.9% (42.4%)	43.1% (35.1%)	9% (20.0%)	0.0% (2.5%)	0.0% (0.0%)
③コミュニケーション能力の修得	59.5% (50.%)	34.8% (40.%)	5.7% (10.%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)
④自分の思いを伝える表現力の修得	36.1% (27.5%)	53.5% (48.8%)	10.4% (23.7%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)
⑤学習意欲 (4月)	25.7% (26.2%)	42.% (25%)	27.6% (32.6%)	4.7% (15%)	0.0% (1.2%)
⑥学習意欲 (11月)	56.8% (40.%)	32.3% (40.%)	10.9% (20.%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)
⑦学習内容の興味関心 (4月)	28.7% (27.5%)	41.9% (35.%)	22.8% (25.%)	6.6% (11.3%)	0.0% (1.2%)
⑧学習内容の興味関心 (11月)	54.4% (42.5.%)	30.5% (40.%)	15.1% (16.3%)	0.0% (1.2%)	0.0% (0.0%)
⑨音楽表現への関心 (4月)	27.6% (31.2%)	45.8% (35.%)	21.9% (23.8%)	4.7% (6.2%)	0.0% (3.7%)
⑩音楽表現への関心 (11月)	53.7% (51.2%)	39.7% (40.%)	6.6% (8.8%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)
⑪知識の修得	38.0% (36.2%)	60.8% (43.8%)	1.2% (20%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)
⑫将来への関連	66.6% (50.%)	25.7% (37.5%)	7.7% (12.5%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)
⑬総合保育技術の授業	53.3% (37.5%)	40.1% (37.5%)	4.7% (25.%)	1.9% (0.0%)	0.0% (0.0%)
⑭発表の満足度	78.9% (62.5%)	19.% (28.8%)	2.1% (8.7%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)
⑮達成感	80% (75%)	17.9% (17.5%)	2.1% (7.5%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)

VI 考察

1. 表1の项目的割合(保育専攻1年生)前年度との比較

表1の项目的割合で着目したのは、①「必要な保育技術の学び」5非常に良い第29回の割合38.6%、第30回が42.8%、4良い第29回40.5%、第30回が46.6%と高い割合になっていることである。要因としては、総合保育技術の授業が様々な保育技術の学びにつながっていることを学生たちが理解しているからと推察する。

オペレッタで培う歌唱力や表現力は保育現場で歌の活動を指導するとき発揮できるものであり、身体表現の分野では保育現場で身体を用い自分の気持ちを表現するスキルを獲得でき、他の活動からも保育現場に活用できるスキルを多様に学んでいる自覚が自由記述から推察できる。

③「コミュニケーション能力の修得」5非常に良い第29回の割合50.4%、第30回が46.6%、4良い第29回28.9%、第30回が40.9%と良いが昨年度より高くなっている。第30回では6つの活動に割り振って活動を行った中で1年生と2年生のコミュニケーションが円滑にとれている活動と1年生と2年生の間で指導者のフォローが必要だった活動があった。また、1年生と2年生の人数がどちらかに偏ってしまった活動があり、昨年度よりは非常に良いと評価しなかった学生が増加し、良いの評価が増えたように考える。反面、この活動からコミュニケーション力が修得できたと考える学生はコメントからも多くなっている。

④「自分の思いを伝える表現力の修得」については、5非常に良い 第29回35.7%、第30回48.5%、良い第29回36.7%、第30回33.3%である。学生の感想文やアンケートのコメントより「活動では相手の言い分を聞きつつ、自分の思いを怖がらず伝えていく」「言葉にする」「身体で表現することの重要性を第30回で実感している」というコメントから割合の結果が裏付けされている。

⑦「学習内容の興味関心」⑨『音楽表現への関心』の項目『4月』では、2良くない第29回3.8%から第30回で6.7%、⑨「音楽表現への関心」第29回2.9%から第30回で6.4%となった要因は6つの活動の中から希望通りの活動に入ることが出来なくなった学生が年々増加していることが要因と考える。保育専攻の学生の増加にともない、学生が好む活動は授業や練習場所での安全面への配慮の必要性から人数を制限している。希望通り活動が出来ない学生の授業へのモチベーション低下の原因となり、今後もこの時期の学生への手立てが必要である。

⑫「将来への関連」の項目は5非常に良い第29回56.6%、第30回72.1%と割合が高くなっている。総合保育技術の授業<活動>が学生にとって保育者になった時の関連性を学生が身を持って考えることができる活動だと言えるだろう。1年生にとって上級生の姿は1年後の自分たちの目指す姿であり、または将来保育者として目標となる人物である。先輩と共に活動ができる授業であり、将来への関連付けを考えているといえる。

⑬『総合保育の授業』は第29回5非常に良い29.7% 4良い21.8% 3普通48.5% 2良くない0.0%、1非常に良くない0.0%。第30回では5非常に良い46.7% 4良い40.0% 3普通9.5% 2良くない1.9%、1非常に良くない1.9%であった。要因としては非常に良いと感じた学生がいる一方で、良くない、非常に良くないという項目を選択した学生がいた。1年生と2年生の人数にばらつきがあり、受講しづらかった、2年生との活動にプレッシャーを感じた。2コマ連続の授業の時間配分についての意見が多かったことなどから授業の改善が必要だと感じている。

⑭『発表の満足度』第29回 5非常に良い63.6% 第30回78.9%という数値から学生が第30回幼児のための「音楽と動きのつどい」で発表できたことを満足していることは明確である。

今回は佐世保市民会館での公演となり昨年よりステージの大きさ、空間の使い方、すべてにおいてスケールが大きいものであった。1408席の座席を誇る市民会館の大きなステージで発表できたことは学生にとって、とても有益な経験であり第29回より非常に良いの割合が高くなった要因といえる。

2. 表2の項目的割合（保育専攻2年生）の前年度との比較

⑤『学習意欲』⑦『学習内容の興味関心』⑨『音楽表現への関心』（4月）の項目が非常に良いが『高くなった要因として、昨年の経験から新たな気持ちでステージづくりを行う期待感を抱けるようになったことと、6つの活動から選択した希望通り、できるだけ選択通りの活動ができるよう担当教員で調整した結果であり、2年生になって希望どおりの活動ができるということが意欲向上につながった結果と思われる。

⑬「総合保育技術の授業」第29回非常に良い37.5% 良い37.5%、普通25%、第30回 非常に良い53.3% 良い40.1% 普通4.7%の割合の要因は、音楽、演出などすべてを学生自身で考えて制作を行い、保育技術スキルを向上させている。様々な悩みを抱えながら行ってはいるが、保育者になって活用できる授業として評

価が高くなった要因である。

⑭『発表の満足度』については第29回非常に良い62.5% 良い28.8% 普通8.7% 第30回 非常に良い78.9% 良い19% 普通2.1%である。練習を通して、お客様にどのようにしたら楽しんでもらえるか、どうしたら物語を理解してもらえるか、どれぐらい声を出せば聞こえるか、様々な困難にぶつかりながら練習し発表を行った。その様々な努力の成果があつてこそ、「子どもたちの喜んでる反応を見ることができ嬉しかった」などの数々のコメントから満足度が高くなっていることが裏付けられる。また、昨年よりも数値が上がったのは、昨年よりも「もっと良いものをつくりたい」という学生同士の気持ちがお互い高めあうことができたのではと推察する。

⑮『達成感』の項目は第29回 第30回も高い評価となっている。

子どもたちの前で緊張感を持って発表するということは目の前の子どもの反応を生々しく体感することができ、そのことが充実した活動につながり、その経験が保育者として子どもに還元されていく。自分の身体に刻み込まれる体験と共に努力した学友を信頼することにより、それが自己を思い切り表現することの前提条件となる。この行事の素晴らしさはステージに立ち、観客の子どもたちや保護者の反応を間近に感じることができることである。学生同士時には喧嘩をしたり、話し合いをしたり、苦勞をしながら舞台までの準備期間を過ごしている。暖かい拍手と子どもたちの喜んでる姿を目にして、すべての苦勞が水に流される瞬間を体験することで、次へのステップとなる。

「一つのものを作り上げる難しさを経験したからこそ、子ども達の反応が感じられ、ステージで踊ること、演じること、歌うことができて本当に良かった」「成功するか不安でいっぱいだったが子どもたちが喜んでる姿が見えてとてもうれしかった」「やり遂げてよかった」などのコメントより達成感を感じている記述でそのことが証明されている。

Ⅶ まとめ

これらの結果から公演までの授業において③『コミュニケーション能力の修得』という学習のねらいや⑭『発表の満足度』についてはある程度獲得できていることが明らかとなった。この活動は異学年での集団活動であり、「人間関係を様々な角度から処理する能力」が必要で、自分の感情をコントロールでき、客観的に自己を把握すること、他者の気持ちを敏感に感じ取りながら自己の行動を抑制する社会的感性が必要になる。そういう意味での行事の目的については概ね達成されている。しかしながら30回記念公演を終え、学生の多様化に伴い行事の見直しを検討した。

この活動は30年の間にクラブ発表（クラブに所属する学生のみ発表）から保育学科保育専攻の学生全員の表現活動の成果発表に変化してきた。2学年で発表を目指す形式から、学年ごとの活動に変化させる。保育専攻2年生は第31回幼児のための「音楽と動きのつどい」のステージ発表を目指す。2年生のみステージ発表を行い、第30回でのステージ経験を生かし、より質の高いステージ発表を目指していきたい。

保育専攻1年生はステージに上がる前の素地づくりの授業を実施する。

実習の準備期間として授業を展開し、総合的な保育技術を向上させたい。また、地域のイベントに積極的に参加し、地域の方々や子ども達とのコミュニケーション能力を育成させていきたい。

様々な表現活動を1年次に体験させること、そして、グループ活動を行いながら本学園の学園祭での発表も視野に授業を進めていく。いろいろな表現力を1年次に修得させ、保育技術のスキル向上を目指し、各学年でのそれぞれの活動を行い、どのような成果がみられるのか検証し、保育技術向上を目標に保育者養成校としての使命をはたしていきたい。

付記 本研究は平成26年度長崎短期大学傾斜配分研究費より助成を受け行われたものである。

参考文献

- 「研究発表要旨」(2013) 上谷祐子「領域表現における、応用力育成についての一考察」
九州公私立音楽学会 北九州大会
神原雅之 鈴木恵津子 (2013) 「幼児のための音楽教育」教育芸術者
谷田貝紀公昭 監修 (2014) 一藝社
下清水 広 岩城正幸 間井谷容代 尾田敬子 (2013) 本学院における表現活動への取り組み
奈良保育学院研究紀要
「保育者養成協議会セミナー 保育者養成と表現活動 総合性・専門性と学生の育ち」

5. 分科会 (第5分科会) 話題提供者要旨資料